

第 10 回 情報システム学会・情報社会の成育モデル研究会 報告

日時：2017年09月16日（土） 9:00 ～ 12:00

会場：会議室C - ハロー貸会議室 川崎駅前

参加者：田名部、原

一般参加者：1名

配布資料：ディスカッションペーパー（原）－ 研究会資料置き場にアップ

議題：

1 議論

前回の議論を踏まえて情報社会の成育モデルの構築に向けての議論を行った。

前回提示された情報社会の成育モデルの構築のためのアプローチ/フレームワークをもとに議論を行う。

主な議論は以下のとおりである。

① 成育モデルの意味するところの確認。

社会の変化とほぼ同じ意味合いだが、ある部分を内包して継承しながらシステムとしては外観が変化していく（生物の成長変化：例えばオタマジャクシが蛙に変わる）変換構造を捉えたくて成育モデル（Growth Model）と名付けた。

② 情報社会と情報システムの関係

情報によって世界に意味・価値を与え秩序をもたらすために、構築された情報システムによって人間の情報行動を組織化する社会と捉える。

③ 情報社会/情報システムの捉え方は、人、時代、地域によって異なっていて、必ずしも共通の理解を得ている現状ではない。社会観、システム観の変遷の中で何が変わってきているのか、何が変わっていないのかを見極めていく必要があるのではないか？そのような異なる議論を共通の場で行えるようなフレームワークを考えられないか？

④ 前回の議論で提示された3つのモデルでは、対象とする社会をデザイン、インプリメントする関係を分類した。このスキームに以下の意見が出された。

- 1) デザイン、インプリメントは、人間による工学的アプローチになる。従って、デザイン、インプリメントされた社会のモデルと合わせデザイン、インプリメントする活動の場を考慮しなければならないのではないか？
- 2) タイプ（A）とタイプ（B）には人間が明示的に位置づけられているが、タイプ（C）は、社会全体が自動化されているイメージに見える。このタイプ

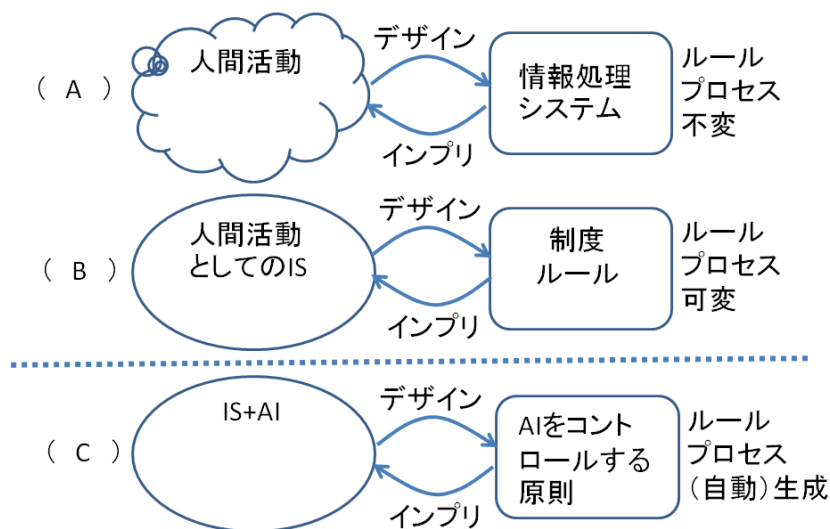
では人間の位置づけをどう考えればよいのだろうか？

・自動化された社会を管理・監視する役割の集団と自動化された社会から恩恵を受け生活する集団を考えるのか？

- ⑤ デザイン、インプリする作業空間における手法の特徴・変化、集団構造の特徴・変化を捉える必要があるのではないか？
- ⑥ 変化する社会における人間の学習/教育の課題を見ておくべきではないか？

情報社会の成育モデル研究会 第10回資料 - 2017年9月16日

情報社会の成育モデルの検討のための課題領域の提案



次回以降、さらに議論を継続し、情報社会の成育モデルの構築を目指す。

2 今後の予定

以下を仮置きしておく。

第 11 回 11 月 23 日 (木) 13:00-16:00

第 12 回 1 月 ? 日

第 13 回 3 月 ? 日

次回予定

第 11 回成育モデル研究会

日時：2017 年 11 月 23 日 (木) 13:00-16:00

場所：横浜・川崎方面の会議室 (未定)

(決定次第連絡する)

議題：成育モデルの検討

他

以上